

令和7年度 長崎国際大学 社会福祉学科 入学試験問題  
編入学試験  
小論文(国内B)

【問題】

東日本大震災を契機に議論が高まった災害時の福祉について、支援が必要な高齢者や障害者の避難生活中的生活機能等の低下を防止するための支援チーム「DWAT(災害時派遣福祉チーム、以下DWAT)」というものがある。DWATとは、社会福祉士や介護福祉士、介護支援専門員が看護師、理学療法士や作業療法士等で組織されているものであり、派遣されたDWATは、被災者の状況を理解した上での支援が必要とされている。

社会福祉分野の専門職として、災害時における被災者への支援を行う場合、どのような支援を行うか、あなたの考えを800字以内で論ぜよ。

【模範解答】

災害時における福祉的な支援において、社会福祉分野の専門職が災害時に被災者支援を行う際には、生命の安全確保だけでなく、生活の継続性や心理的安定を重視した支援が求められる。

まず重要なのは、被災者一人ひとりの生活背景や障害の特性、健康状態を丁寧に把握することである。避難所では、環境の急激な変化や集団生活によって心身の機能低下が生じやすい。社会福祉分野における専門職は、食事、排泄、移動、睡眠といった生活行為に着目し、生活機能の低下が予測される場合には早期に支援を行う必要がある。

次に、被災者であっても高齢者や障害者への自立を支援するという視点をもった関わりが必要である。つまり、できることを維持・活用する視点が重要である。過度な介助は自立性を損なう可能性があるため、本人の残存能力を尊重しながら、必要最小限の支援を提供することが求められる。また、福祉用具の活用や生活環境の調整を行い、安心して生活できる避難環境を整えることもDWATの重要な役割である。

さらに、災害時には不安や喪失感から心理的負担が大きくなる。社会福祉専門職は傾聴を基本とし、被災者の思いや不安を受け止めることで心理的安定を支えるとともに、必要に応じて医療や他職種につなぐ調整役を担うことが重要である。

加えて、要支援・要介護者が被災することを想定し、平時からの備えとして、要支援・要介護者の把握や支援体制の確認、地域との連携強化を進めておくことも欠かせない。災害時の支援は一時的な対応にとどまらない可能性もある。そのため、その後の生活再建を見据えた継続的な支援も不可欠である。多職種との連携を行い、被災者の尊厳を守りながら生活機能低下を防止する専門的支援を行うことが、社会福祉分野の専門職に求められる役割である。